

誰かと一緒に歩いていて、お昼時になった。相手から「昼ごはんはビーフカレーとチーズカレー、どっちにする？」と言われたら、あなたはどうするだろう。



一緒に歩いているのが親しい友達だったなら、「なんでカレーって決まっているんだよ！」とか「カレーでもいいけど、他の種類もあるでしょ！」などと返すはず。では、その相手が、会社の上司や、逆らうと面倒な近所の偉い人だったらどうだろう。頭の中では「え？は？」と思いつながりながらも、「えっと、じゃあ、チーズカレーで……美味しいですよ」なんて答えてしまうかもしれない。

勝手に前提を決められて、その上で選択肢を示される。そこで選んだものを、「これ、あなたが選んだんだからね」とされてしまう。これは、各種ハラスメントが横行する場で繰り返されてきた方法である。世の中に食べ物はたくさんあるのに、いつの間にか、ビーフカレーとチーズカレーから選ばれている。なぜカレーなのか、と反論しても、もうすでにカレー屋さんの前に連れて行かれている。

さて、もちろん、防衛費増額の議論の話である。岸田政権は防衛費の増額を勝手に決め、増税を財源にするのか、国債を発行するのか、自民党内でさまざまな意見が出ている状態にある。テレビのニュースを見ていると、その多くで、自民党内で飛び交っている意見を垂れ流している。これは完全に「お昼はビーフカレーとチーズカレー、どっちにする？」と同じ手口である。そもそも、私たちは、防衛費の増額をいつ受け入れたのだろうか。いつ、細かな説明を受けたのだろうか。

半年前の6月、参議院選挙の前に行われた日本記者クラブでの討論会で、岸田文雄首相は防衛費の増額について、「内容と予算と財源を3点セットで考える」と明言している。当たり前の話である。たとえば会社の文房具を購入するにしても、新たにこれくらい使う予定があるので、この予算からこれだけの額を使いたい、と申請して購入が決まる。ところが、結果的に岸田首相は3点セットの一点だけ、予算を増やすことだけを決めてしまった。財源はどうするのか、何に使うのか、その議論を国民に対して怠ったのだ。



防衛費増額の財源をどうするか、その議論に萩生田光一政調会長が出てきたり、復興特別所得税の一部をあてるとの議論で秋葉賢也復興大臣が出てきたりしている。あれ、一人は、旧統一教会との深いつながりが指摘されたままになっている人。もう一人は、複数の公職選挙法違反の疑いで「疑惑のコンビニエンスストア」とまで言われた人だ。そういう人たちが、何食わぬ顔で防衛費増税の議論に参加している。

この議論の前に、問題を抱えている人が数多くいる。そういえば、安倍晋三元首相と旧統一教会との関係はどうだったのか。乱暴な問題提起を受け止める前に問うべきことが無数にある。2種類のカレーから選ばされるような政治に易々と騙されてはいけない。

(たけだ・さてつ ライター)